

# 『経営哲学』投稿規定

『経営哲学』編集委員会  
(2007年8月31日常任理事会承認)

## 1. (投稿者の範囲)

投稿者は原則として、経営哲学学会の会員とする。

## 2. (投稿原稿の種類・研究テーマ・言語)

投稿は「論文」「研究ノート」の2種類とする。いずれの場合にも、広い意味における経営哲学に関する問題をテーマとする研究が望ましく、このテーマの研究の審査・掲載が優先される。未公刊であり、また他誌で査読中でないものに限る。使用言語は、日本語・英語いずれかによる。

## 3. (著作権)

掲載される論文・研究ノート・その他の一切の著作権はすべて、経営哲学学会に帰属する。なお、投稿原稿の審査終了以前に他の場所で公刊してはならない。本誌に記載された論文・研究ノートその他を執筆者が他の出版物に転用する場合には、予め文書によって経営哲学学会の承認を受けなければならない。

## 4. (投稿論文の形態)

- ① 原稿は機械出力されたハードコピー(ワープロ・パソコンの印刷原稿)による『横書き』とする。掲載決定後には編集委員会の指定する最終稿は、編集委員会が指定する、印刷上、もっとも相応しい形態での提出が求められる。
- ② 投稿原稿の執筆については、別紙に定める『経営哲学』執筆要領にしたがう。
- ③ 投稿の際、「論文」「研究ノート」の区別を明記する。本文とは別に、キーワード5~10を添え、要旨は日本語(800字以内)、英語(250語)の両方とし、題字、キーワード等をふくめ、刷上がり1ページ以内のものを併せて提出する。(この要旨にも、投稿者を特定化できる氏名その他を一切記入しないこと)
- ④ 投稿原稿の表紙に投稿者の氏名・住所・所属機関・肩書き・電子メールアドレスその他連絡先を明記する。ただし、原稿それ自体には、タイトルのみを記載し、審査のため、氏名、その他執筆者を特定できるようなものは一切記入してはならない。

## 5. (投稿部数)

投稿原稿は、ハードコピー1部を事務局に提出することとする。

## 6. (投稿論文の分量)

- ① 「論文」については、本文・図・表・注・文献リストなどをふくめ、刷上がり16ページ以内とする。
- ② 「研究ノート」については、同じ要領で、刷上がり10ページ以内とする。  
日本語の場合は「論文」の場合、20,000字以内(A4で40行×40字×12.5枚)とする。  
英語の場合は、6,000語以内(A4でダブル・スペース)とする。  
「研究ノート」は日本語、10,000字・英語3,000語とする。

## 7. (投稿原稿の扱い)

投稿原稿の採否、「論文」「研究ノート」にして掲載するかの判断と決定は、編集委員会の委嘱する「審査委員会」の審査に基づき、編集委員会が決定する。投稿原稿その他は返却しないので、投稿者自身がコピーし、保存する。

## 8. (投稿と採択)

審査後の採択原稿については受付日と採択決定日を記載し、公刊する。

## 9. (原稿料)

原稿料は一切支払わない。

## 10. (校正)

採用原稿の校正は原則として、初校のみとし、校正時の改訂は認めない。

## 11. (投稿締切日)

特に設定しない。投稿時点以降に開催の編集委員会が決定する。会報・HP等で連絡する。

## 12. (投稿先)

〒108-8345 東京都港区三田2丁目15番45号 慶應義塾大学/渡部直樹常任理事室内  
経営哲学学会 機関誌編集委員会 (電子メールjournal@jamp.ne.jp)